

1.	①	11.	①	21.	④	31.	④	41.	①
2.	②	12.	②	22.	④	32.	①	42.	④
3.	③	13.	③	23.	④	33.	③	43.	②
4.	②	14.	②	24.	③	34.	③	44.	①
5.	④	15.	③	25.	③	35.	①	45.	①
6.	②	16.	④	26.	①	36.	③	46.	②
7.	③	17.	③	27.	①	37.	②	47.	②
8.	④	18.	②	28.	④	38.	④	48.	②
9.	①	19.	②	29.	③	39.	③	49.	④
10.	①	20.	④	30.	④	40.	③	50.	②

1.

解答 ①

【解説】

正解は①「～で覆われている」です。be covered with ～は、何かの表面全体が、雪や葉、ほこりなどで覆いつくされている状態を表す熟語です。The mountains are covered with snow in winter. (冬にはその山々は雪で覆われる) のように使います。②は be filled with ～、③は be made from/of ～、④は be known for ～がそれぞれ適切な表現です。

◆補足：この表現は、前の問題の動詞 cover (～を覆う) の受け身の形です。Snow covers the mountains. (雪が山々を覆う) という文を、山を主語にして言い換えたものが The mountains are covered with snow. となります。

2.

解答 ②

【解説】

正解は②「こちらへ、このように」です。this way は、聞き手の近くの方角を指して「こちらへ」と案内したり、やり方を示して「このように」と説明したりする時に使う便利な表現です。店員がお客さんを案内する際に This way, please. (こちらへどうぞ) と言うのが典型的な例です。①「あちらへ」は that way、③「毎日」は every day、④「ところで」は話題を変える時に使う by the way が適切な表現です。

◆補足：this way が方法を示す例としては、If you do it this way, it will be easier. (もしこのようにやれば、もっと簡単になりますよ) のように使います。方向を指す場合も方法を指す場合も、話し手にとって身近なものを指すのがポイントです。

3.

解答 ③

【解説】

正解は③の **in this way** で、「このようにして、この方法で」と、手段や方法を説明する際に使う表現です。He became a famous singer **in this way**. (彼はこのようにして有名な歌手になった) のように、前の文で述べた内容を指して使うことが多いです。①**by the way** は「ところで」と話題を変える時、②**on the way** は「途中で」、④**all the way** は「はるばる、ずっと」という意味で、それぞれ **way** を使った重要な熟語ですが意味が異なります。

◆**補足**：this を that に変えて **in that way** とすると、「そのようにして、その方法で」と、少し離れた事柄や相手が述べた方法を指すことができます。

4.

解答 ②

【解説】

正解は②「～したい」です。「**want to + 動詞の原形**」の形で、「～したい」という願望を表す、非常に基本的な表現です。「**I want to be a doctor.**」(私は医者になりたいです) のように、将来の夢を語る時などにも使われます。①「～する必要がある」は **need to do**、③「～するつもりだ」は **be going to do**、④「～することができる」は **can do** や **be able to do** で表します。

◆**補足**：「**want to**」は、口語ではよく「**wanna (ワナ)**」と発音されます。友達同士のカジュアルな会話で使われることが多いです。例：I **wanna go home**. (家に帰りたいな。)

5.

解答 ④

【解説】

正解は④「**A に B を貸す**」です。動詞「**lend**」は、返却を期待して、短期間誰かに何かを貸すことを意味します。構造は **lend + (人) + (物)** です。例えば、「**Could you lend me your dictionary?**」(あなたの辞書を私に貸して给我せんか?)。①「**A に B を借りる**」は **borrow B from A** です。**lend** と **borrow** は反対語で、学習者にとって非常に混同しやすい点です。

◆**補足**：過去形と過去分詞形は **lent** です。この構造は **lend B to A** とも書けます。「**I lent my book to him.**」 = 「**I lent him my book.**」

6.

解答 ②

【解説】

正解は②「演者、出演者」です。「performer」は、俳優、音楽家、ダンサーなど、観客を楽しませる人のことです。動詞の perform（演じる、演奏する）から来ています。①「観客」は audience、③「監督」は director、④「案内人」は guide です。

◆補足：「大道芸人」は a street performer と言います。公演自体は performance と呼ばれます。

7.

解答 ③

【解説】

正解は③「公園」です。「park」は、人々が散歩したり、遊んだり、リラックスしたりするために利用できる、木や草のある広い公共の場所を指します。「Let's play catch in the park.」（公園でキャッチボールをしよう。）①「駐車場」は parking lot、②「部品」は part、④「暗い」は dark です。

◆補足：park は動詞として「(車を) 駐車する」という意味もあります。こちらの意味も非常に重要なので、合わせて覚えておきましょう。

8.

解答 ④

【解説】

正解は④「～を想像する」です。「imagine」は、何かがどのようなになりうるかについて心の中に絵や考えを形成することを意味します。例えば、「Can you imagine life without smartphones?」（スマートフォンがない生活を想像できますか?）。①「～を招待する」は invite、②「～を意味する」は mean、③「～を改善する」は improve です。

◆補足：名詞形は imagination（想像力）です。「Use your imagination!」（想像力を働かせて!）。

9.

解答 ①

【解説】

正解は①「～の中をのぞく」です。「look」は「見る」という動詞で、「in」は「～の中に」という前置詞なので、組み合わせて「～の中を見る、のぞき込む」という意味になります。「I looked in the box, but there was nothing.」（私は箱の中をのぞきましたが、何もありませんでした）のように使います。②「～を探す」は look for、③「～を調べる」は look up、④「～の世話をする」は look after で、look を使った熟語は意味が様々なので、一つ一つしっかり

◆補足：「look into ～」も「～の中をのぞき込む」という意味がありますが、さらに「(問題などを) 調査する、詳しく調べる」という意味で使われることも多いです。

10.

解答 ①

【解説】

正解は①「～に達する、届く」です。「reach」は、ある場所や目標に「到着する、到達する」という意味の動詞です。arrive at と似ていますが、reach は後ろに前置詞を必要としないのがポイントです。

「We reached the top of the mountain.」（私たちは山の頂上に着いた。）②「～を教える」は teach、③「～を読む」は read、④「～を繰り返す」は repeat です。

◆補足：手を伸ばして「～に手が届く」という意味でも使われます。例：Can you reach the book on the top shelf?（一番上の棚の本に手が届きますか？）

11.

解答 ①

【解説】

正解は①「強い、じょうぶな」です。strong は、人の力が強いこと、体が健康なこと、物が頑丈なことなど、様々な「強さ」を表す基本的な形容詞です。This box is strong enough to sit on.（この箱は座れるくらいじょうぶだ）のように使います。②「弱い」は weak で、strong の反対語です。③「長い」は long、④「重い」は heavy です。

◆補足：strong は、コーヒーの味が「濃い」、風が「強い」、意志が「固い」など、比喩的にも広く使われます。She has a strong will.（彼女は強い意志を持っている）。名詞形は strength（強さ）です。

12.

解答 ②

【解説】

正解は②「information」です。この単語は、ある主題に関する事実や詳細を指します。英語では information は数えられない名詞であることが重要で、そのため「an information」や

「informations」とは言えません。数えるときは、「a piece of information」を使います。例えば、「I need more information about the event.」（そのイベントに関するもっと多くの情報が必要です）。

◆補足：動詞形は inform（知らせる）です。「案内所」は an information desk です。

13.

解答 ③

【解説】

正解は③「light」です。「light」にはたくさんの意味がありますが、形容詞としては重さが「軽い」、色が「淡い」、食事が「軽い」などの意味で使われます。①「right」は「正しい、右の」、②「tight」は「きつい」、④「bright」は「明るい」という意味です。

◆補足：light の反対の「重い」は heavy、「濃い（色）」は dark です。また、名詞として「光、明かり」という意味も非常に重要です。例：Turn on the light.（電気をつけて。）

14.

解答 ②

【解説】

正解は②「歯医者」です。「dentist」は歯の治療を専門とするお医者さん、つまり「歯医者」のことです。「I have an appointment with the dentist today.」（今日、歯医者の予約があります。）①「医者」は doctor、③「看護師」は nurse、④「科学者」は scientist です。

◆補足：dentist は、ラテン語で「歯」を意味する dens から来ています。歯の痛みは toothache、歯科医院は dental clinic と言います。

15.

解答 ③

【解説】

正解は③「東の」です。この形容詞は east（東）から派生し、ある場所の東の部分にある、または東から来たものを表します。例えば、「the eastern part of Hiroshima Prefecture.」（広島県の東部）。①「西の」は western、②「南の」は southern、④「北の」は northern です。

◆補足：東アジアは英語でしばしば Far East と呼ばれます。

16.

解答 ④

【解説】

正解は④「～もまた（～ない）」です。肯定文で「私もです」というときは「Me, too.」のように「too」を使いますが、否定文で「私も～ではありません」と同意するときは、文の最後に「either」を使います。問題文は「私も納豆が好きではありません」という意味です。「I don't, either.」のように、前の内容を省略して言うこともできます。①「～もまた（肯定文で）」は too や also が使われます。

◆補足：either は「either A or B」（A か B のどちらか）という形で使われることも非常に多いです。この使い方もしっかり覚えておきましょう。

17.

解答 ③

【解説】

正解は③「be similar to」です。この表現は、二つのものが似ているが、全く同じではないことを意味します。例えば、「Your opinion is similar to mine.」（あなたの意見は私のと似ています）。①「be same as」は同一であることを意味します。②と④は不正確な表現です。

◆補足：名詞形は similarity（類似点）です。

18.

解答 ②

【解説】

正解は②「customer」です。これは店や企業から商品やサービスを購入する個人や組織を指す最も一般的な言葉です。例えば、「The customer is always right.」（お客様は常に正しい）。①「shopper」は店で物を買う人です。③「guest」はホテルに滞在している人や、イベントや誰かの家に招待された人です。④「client」は弁護士や会計士など、専門家のサービスを利用する人です。

◆補足：「カスタマーサービス」は Customer service といい、企業が顧客に提供する支援やアドバイスのことです。

19.

解答 ②

【解説】

正解は②「homework」です。「home」（家）と「work」（勉強、仕事）がくっついた単語で、学校から家でしてくるようにと出される「宿題」を指します。「I have a lot of homework today.」（今日は宿題がたくさんあります）のように使います。①「housework」は「家事」、③「office work」は「事務の仕事」、④「hard work」は「大変な仕事、努力」を意味します。

◆補足：homework は数えられない名詞として扱われるのがポイントです。そのため、たくさんの宿題があっても“many homeworks”とは言わず、“a lot of homework”や“much homework”のように表現します。

20.

解答 ④

【解説】

正解は④「pass」です。「pass」は「～を通り過ぎる」や「～を手渡す」など多くの意味がありますが、試験や検査などについて「～に合格する、～を通過する」という意味でも非常によく使われます。

「I passed the exam!」（試験に合格したよ！）のように使います。①「fail」は「失敗する、落ちる」という反対の意味の動詞です。②「take」は「（試験を）受ける」、③「finish」は「～を終える」という意味です。

◆補足：合格したことを伝えるときに、「I passed!」とすることができます。逆に、不合格だった場合は「I failed.」となります。

21.

解答 ④

【解説】

正解は④の million で、「100 万」（1,000,000）を意味する数字の単位です。英語で大きな数を表現する際に基本となる言葉の一つです。他の選択肢を見てみましょう。①hundred は「100」、②thousand は「1,000」、③billion は「10 億」を指します。これらの単位は正確に覚えておきましょう。

◆補足：a million（100 万）、two million（200 万）のように、具体的な数字と使う場合は複数形の-s は付きません。しかし、millions of stars（何百万もの星）のように、漠然と「たくさんの」と言いたい場合には millions of ～という形を使います。

22.

解答 ④

【解説】

正解は④「run after」です。「run」（走る）と「after」（～の後を）が組み合わさって、「～を追いかける」という意味になります。「The dog is running after a cat.」（その犬は猫を追いかけています。）①「run away」は「逃げる」、②「run into」は「～にばったり会う」、③「run out of」は「～を使い果たす」という意味です。run を使った熟語はたくさんありますね。

◆補足：人や動物だけでなく、夢や目標などを「追いかける」という意味で使うこともできます。例：run after a dream（夢を追いかける）。

23.

解答 ④

【解説】

正解は④「so ～ that…」です。「so」の後ろに形容詞や副詞を入れ、「that」の後ろに文を続けることで、「とても～なので、その結果…だ」という因果関係を表すことができます。②のように very と組み合わせることはできません。①は「～すぎて…できない」、②は such a/an 形容詞 名詞 that の形で so...that と似た意味を表し、③は「A だけでなく B も」という意味です。

◆補足：that は省略されることもあります。「so」と「that」が離れているので、文の構造をしっかりと見抜くことが大切です。

24.

解答 ③

【解説】

正解は③「魚釣り」です。「fish」（魚、魚を釣る）という単語に-ing がついた形で、スポーツやレジャーとしての「魚釣り」を指す名詞です。「My hobby is fishing.」（私の趣味は魚釣りです。）①「料理」は cooking、②「仕上げ」は finishing、④「格闘」は fighting です。

◆補足：「釣りに行く」は go fishing と言います。go + -ing の形で「～しに行く」というアクティビティを表すパターンは他にもたくさんありますね（go shopping, go swimming など）。

25.

解答 ③

【解説】

正解は③「soldier」です。soldier は、軍隊に所属している人のことです。例えば、「Many brave soldiers fought in the war.」（多くの勇敢な兵士がその戦争で戦った）。①「shoulder」は肩、②「leader」はリーダー、④「border」は国境です。

◆補足：「兵隊のおもちゃ」は a toy soldier です。

26.

解答 ①

【解説】

正解は①「first」です。順番を表す序数詞で、「1 番目の、最初の」という意味です。通常、the first のように the と一緒に使います。②「one」は基数詞の「1」、③「once」は回数を表す「1 回」、④「fast」は「速い」という意味の形容詞・副詞です。

◆補足：2 番目は second、3 番目は third と、最初の 3 つは特別な形なので注意しましょう。4 番目以降は、基本的に数字に-th をつけます（fourth, fifth など）。

27.

解答 ①

【解説】

正解は①「photo」です。これは photograph という単語の短くて一般的な形で、カメラを使って作られた写真を意味します。例えば、「I took a lot of photos in Kyoto.」（私は京都でたくさん写真を撮りました）。②「picture」は、写真、絵画、図面などを含むより一般的な言葉です。③「image」はイメージや像、④「poster」はポスターです。

◆補足：「写真を撮る」は “to take a photo” と言います。写真を撮る人は photographer です。

28.

解答 ④

【解説】

正解は④「～を（車などに）乗せてあげる」です。これは、誰かを車でどこかへ連れて行くことを意味する慣用句です。例えば、「My dad gave me a ride to the station.」（父が私を駅まで車で送ってくれた）。誰かに車をあげるという意味ではありません(①)。

◆補足：「Can you give me a ride home?」（家まで乗せていってくれませんか？）のように、乗せてもらうよう頼むこともできます。イギリス英語では lift が同義語として使われます。

29.

解答 ③

【解説】

正解は③「乾いた」です。dry は、水分を含んでいない状態を表す形容詞です。洗濯物が乾いている状態や、空気が乾燥していることなどを表します。Please use a dry towel.（乾いたタオルを使ってください）のように使います。①「ぬれた」は wet で、dry の正反対の言葉です。②「冷たい」は cold、④「暖かい」は warm です。

◆補足：dry は「～を乾かす」という動詞としても使えます。A hair dryer は「髪(hair)を乾かすもの(dryer)」ですね。また、y で終わる形容詞なので、比較級は drier、最上級は driest と、y を i に変えて -er, -est を付けます。

30.

解答 ④

【解説】

正解は④「選手、競技者」です。「player」は、ゲームやスポーツに参加する人のことです。動詞の play から来ています。例えば、「He is a famous soccer player.」（彼は有名なサッカー選手です）。①「祈る人」は prayer（その行為も prayer）、②「支払う人」は payer です。

◆補足：player は、楽器を演奏する人（例：a piano player）や俳優を指すこともあります（ただし、actor がより一般的です）。

31.

解答 ④

【解説】

正解は④「(音や声が) 大きい、うるさい」です。「loud」は、音が強くて聞き取りやすいことを表す形容詞または副詞です。例えば、「The music is too loud.」(音楽が大きすぎます)。②「静かな」は quiet で、反対語です。①「低い」は low、③「遅い」は slow です。

◆補足：副詞形は loudly です。「He speaks loudly.」(彼は大声で話す)。

32.

解答 ①

【解説】

正解は①「(ベッドから出て) 起きる、起床する」です。「get up」は、眠りから覚めて、実際にベッドから体を起こして活動を開始することを指します。「I get up at seven every morning.」(私は毎朝 7 時に起きます。) ②「wake up」は、単に「目が覚める」ことで、まだベッドの中にいる状態でも使います。③「寝る」は go to bed、④「あきらめる」は give up です。

◆補足：目が覚めてもベッドの中でゴロゴロしていることもありますよね。I woke up at six, but I got up at seven. (6 時に目は覚めたけど、起きたのは 7 時でした) のように、wake up と get up を使い分けると、より正確な状況を表現できます。

33.

解答 ③

【解説】

正解は③「A に B を送る」です。「send」は「送る」という意味の動詞で、「send A B」の形で「A (人) に B (物) を送る」という使い方をします。例えば、「I will send you an email.」(あなたにメールを送ります) のように使います。①「A と B を交換する」は exchange A with B、②「A に B を貸す」は lend A B、④「A から B を受け取る」は receive B from A など表現します。

◆補足：「send」の過去形は「sent」です。不規則に変化するので注意しましょう。「send A B」は「send B to A」という形に書き換えることもできます。例えば、「I sent him a letter.」は「I sent a letter to him.」と同じ意味になります。

34.

解答 ③

【解説】

正解は③「もっと、より多くの」です。「more」は、すでにあるものに加えて「さらに多くの」という意味を表します。問題文の「Could I have some more water?」は「お水をもう少しいただけますか?」という、おかわりを頼むときの丁寧な表現です。①「ほとんどの」は most、②「いくつかの」は some、④「少しの」は a little や a few を使って表現します。

◆補足：more は長い単語の比較級を作るときにも使います。例えば、beautiful の比較級は more beautiful (より美しい) となります。また、「one more time」(もう一回) や「a little more」(もう少し) のような便利なフレーズも覚えておきましょう。

35.

解答 ①

【解説】

正解は①「外国へ、外国で」です。「abroad」は「外国に(で、へ)」という意味の副詞です。to や in などの前置詞をつけずに、単独で使えるのがポイントです。「I want to study abroad in the future.」(将来、海外に留学したいです) のように使います。②「船上で」は on board、③「広範囲に」は broadly、④「家で」は at home です。

◆補足：形容詞の「foreign」(外国の) と副詞の「abroad」(外国へ) の使い分けに注意しましょう。「foreign country」とは言いますが、「abroad country」とは言いません。「go abroad」とは言いますが、「go foreign」とは言いません。

36.

解答 ③

【解説】

正解は③「worry」です。「心配する、気にする」という意味の動詞です。worry about ～の形で「～について心配する」と、心配の対象を表すことが多いです。「Don't worry about me.」(私のことは心配しないで。) ①「hurry」は「急ぐ」、②「sorry」は形容詞で「気の毒な」、④「work」は「働く」という意味です。

◆補足：名詞としても使え、「心配事」を意味します。例：My biggest worry is the exam. (私の最大の心配事は試験です。)

37.

解答 ②

【解説】

正解は②「～回、～度」です。「time」は「時間」という意味でよく知られていますが、数えられる名詞として使うと「回数」を表します。問題文は「私は広島に3回行きました」という意味です。①「時間」や③「時刻」も time の重要な意味ですが、この文脈では②が最も適切です。④「時代」は era や age が使われます。

◆補足：one time は once、two times は twice という特別な言い方がありますね。3回以上は three times, four times...となります。

38.

解答 ④

【解説】

正解は④「theater」です。この単語は、演劇やショーなどが舞台上で演じられる建物を指します。また、映画館を意味することも非常に一般的です。例えば、「We went to the theater to see a new movie.」

（私たちは新しい映画を見に映画館へ行きました）のように使います。①「museum」は博物館、②「stadium」はスタジアム、③「library」は図書館を意味します。

◆補足：イギリス英語では、しばしば theatre と綴られます。映画館を特定して言う場合は、movie theater（米英語）や cinema（英英語）と言えます。

39.

解答 ③

【解説】

正解は③の grass で、公園や庭に生えている「草」や「芝生」を意味します。Don't walk on the grass.（芝生に入らないでください）という看板でよく見かける単語ですね。他の選択肢を見てみましょう。①ground は「地面」、②leaf は（主に木の）「葉」、④flower は「花」を指します。

◆補足：grass は、通常は数えられない名詞（不可算名詞）として扱います。そのため、たくさん生えていても一本一本数えることはせず、a を付けたり複数形の-es を付けたりはしません。芝生全体を一つのものとして捉えるのがポイントです。

40.

解答 ③

【解説】

正解は③「～から遠い」です。「far」は「遠い」という意味の形容詞または副詞で、「far from ～」の形で「～から遠い」という距離を表す表現になります。例えば、「My house is far from the station.」

（私の家は駅から遠いです）のように使います。④「～の近くに」は near や close to、①「～の前に」は in front of で表すのが一般的です。

◆補足：「～からどのくらい遠いですか？」と距離を尋ねるときは、「How far is it from here to ～?」（ここから～までどのくらいの距離ですか?）という疑問文を使います。これはとても便利な表現なので覚えておきましょう。

41.

解答 ①

【解説】

正解は①の **guest** で、「(招待された) 客」や「(ホテルの) 宿泊客」を意味します。パーティーなどに招かれた人のことを指す言葉です。他の選択肢を見てみましょう。②**host** は **guest** をもてなす側の「主人、主催者」で、反対の意味になります。③**member** は「一員、メンバー」で、④**customer** は店で商品などを買う「顧客」を指すため、招かれた客とはニュアンスが異なります。

◆**補足**：**guest** を招く側の人を **host** (ホスト) と言います。また、**guest** が泊まる部屋のことを **guest room** (客間) と呼びます。家に誰かを招待する時や、ホテルに泊まる時など、日常の様々な場面で使える単語です。

42.

解答 ④

【解説】

正解は④「～を信じる」です。「**believe**」は、何かが真実である、または誰かが真実を語っていると考えることを意味します。例えば、「**I believe what you say.**」(私はあなたの言うことを信じます)。①「～を受け取る」は **receive**、②「～を達成する」は **achieve**、③「～を去る」は **leave** です。

◆**補足**：名詞形は **belief** (信念) です。「**I can't believe it!**」(信じられない！) は一般的な表現です。

43.

解答 ②

【解説】

正解は②の **cell phone** で、「携帯電話」を意味する最も一般的な表現です。特にアメリカ英語でよく使われます。他の選択肢を見てみましょう。①**telephone** は固定電話も含めた「電話」全般を指します。③**smart phone** は高機能な「スマートフォン」で、**cell phone** の一種です。④**mobile phone** も「携帯電話」を意味しますが、こちらは主にイギリス英語で使われる表現です。

◆**補足**：**cell** には「細胞」という意味の他に、携帯電話の通信網を構成する「基地局のエリア」という意味があります。**cell phone** という名前は、この通信の仕組みに由来しています。

44.

解答 ①

【解説】

正解は①「**write back**」です。この句動詞は、誰かに返事を書くことを意味します。例えば、「**Please write back soon.**」(すぐに返事を書いてね)。②「**call back**」は電話をかけ直すこと、③「**come back**」は場所に戻ること、④「**give back**」は所有者に何かを返すことを意味します。

◆**補足**：返信メールはしばしば **reply** と呼ばれ、メールソフトのボタンには「**Reply**」と表示されることがあります。

45.

解答 ①

【解説】

正解は①「special」です。日本語の「スペシャル」と同じで、「特別な、普通とは違う」という意味を表す形容詞です。「Today is a special day for me.」（今日は私にとって特別な日です。）②「social」は「社会の」、③「similar」は「似ている」、④「serious」は「深刻な、まじめな」という意味です。

◆補足：動詞の specialize は「～を専門にする」、名詞の specialist は「専門家」という意味になります。

46.

解答 ②

【解説】

正解は②「番組、計画、プログラム」です。「program」にはいくつかの意味があります。テレビやラジオの番組（a TV program）、計画された一連のイベント（a training program）、またはコンピュータの命令セット（a computer program）などです。①「問題」は problem、③「約束」は promise、④「保護」は protection です。

◆補足：イギリス英語では、テレビ番組や計画にはしばしば programme と綴られ、コンピュータには program が使われます。コンピュータプログラムを書く人は programmer です。

47.

解答 ②

【解説】

正解は②「かなり、まあまあ」です。副詞「quite」は、「ある程度まで」または「まあまあ」を意味するために使われます。pretty や rather に似ています。例えば、「The movie was quite interesting.」（その映画はかなり面白かった）。①の形容詞 quiet（静かな）や③の動詞 quit（やめる）と混同しないように非常に注意してください。

◆補足：イギリス英語では、quite は後に続く形容詞によっては「完全に」または「絶対に」を意味することがあります。例：「The idea is quite brilliant.」

48.

解答 ②

【解説】

正解は②「2 度、2 回」です。「twice」は回数を表す副詞で、「2 度、2 回」という意味です。「I brush my teeth twice a day.」（私は 1 日に 2 回歯を磨きます）のように使います。①「1 度、1 回」は once、③「3 度、3 回」は three times と言います。④の「4 倍」は four times です。

◆補足：回数を言うとき、1 回は once、2 回は twice と特別な単語を使いますが、3 回以上は「数字 + times」で表します。例えば、three times（3 回）、four times（4 回）、ten times（10 回）のようになります。「何回？」と尋ねる Subsecuente は「How many times?」と言います。

49.

解答 ④

【解説】

正解は④「teach A B」です。動詞「teach」（教える）は、「A（人）に B（教科など）を教える」という形で使われます。A に「人」、B に「教える内容」が入ります。「Mr. Sato teaches us English.」（佐藤先生は私たちに英語を教えてください。）①は「話す」、②は「見せる」、③は「尋ねる」という意味の動詞です。

◆補足：この文は、前置詞 to を使って teach B to A の形に書き換えることができます。「Mr. Sato teaches English to us.」も同じ意味です。

50.

解答 ②

【解説】

正解は②「～を招待する、誘う」です。「invite」は、パーティーなどの社交イベントに誰かを招くことを意味します。例えば、「He invited me to his birthday party.」（彼は私を彼の誕生日パーティーに招待してくれた）。①「～を発明する」は invent、③「～を投資する」は invest、④「～を調査する」は investigate です。

◆補足：名詞形は invitation（招待）です。「招待状」は an invitation card です。
